

発行 吉原市役所
吉原市今泉43の1
電話(代表)28111番
編集 市長公室

よしおら

市民の動き

(5月1日現在)
男 ... 46,338
女 ... 45,682
計 ... 92,015
世帯数21,168



交通 標識
横断歩道では一たん停車を



影島 清一
おねえち
やんはよ
うちえん
のとき自
動車に頭をはねられて死
にました。

自動車に頭をはねられて死にました。ほくも、自動車にひかれそうになったことがあります。交通じこをおこさないためには、歩く人はばかりでなく、うんでんする人も注意しなければなりません。おらだんほどをわたりついでる人がいたらかならず、いつたんでいしやしててください。

今月の納税

保険税 2期
もうお済みですか...
未納の方は早めに納めましょう。



沼川下流に建設された汚泥処理プラント 日本食品化工東側

田子の浦港の悪臭防く

田子の浦港の第2次工事として、昨年10月から建設されていた「汚泥処理プラント」が、近く運転をはじめます。
汚泥処理プラントは、沼川と和田川が分かれているところから、約100m沼川をのぼったところで、幅100m、長さ200m、面積2万平方m。
このプラントは、田子の浦港のしゅんせ

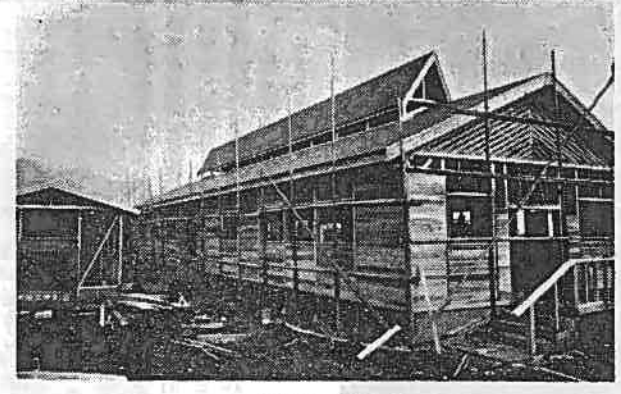
つ作業による排出土の悪臭の防止と、同港の泊地へ廃土がたまるのを防ぐために建設したもの。沈殿地の両側にレールを敷き、移動クレーンをつけて排水の腐敗をくい止め、さらに、クレーンの間に直径12センチのパイプを18本取りつけ、深さ4mの池の中をかき回し500馬力のモーターで、毎時1000トンの沈殿物を吸いあげ、パイプで東防波堤の先端の海中へ放出しようとするものです。

汚泥処理プラン



充実する青少年施設

青少年の健全育成をはかるため、福祉施設を整備し充実させようとして、市では現在大淵字丸火に「青少年野外訓練所」を建設しています。



青少年野外訓練所

青少年野外訓練所の建設は、工費八五〇万円をかけて、大淵字丸火の市有地八四ヘクタールに、宿舎一棟とキャンプ場をつくるものです。
宿舎は木造平屋建てで、梁間が二七m、奥行が七・二mで、中央にコンクリート通路をつくり、両側の床は板張りになります。
収容人員は二〇〇人、おとななら六〇人が一度に泊れます。
キャンプ場は、むかしながらの面影をこわさないように、一〇人用のテントを張るところは一五平方mを一〇カ所整地し、三人から四人用のテントを張るところは八平方mを五カ所整地します。また、キャンプ場が分散してい

六月下旬に開所

夏季休暇になってからです。なお、この訓練所は青少年はもちろんな、市民ならだれでも利用できます。希望する方は市福祉事務所へお申し込みください。
写真(上) 開所が待たれる青少年野外訓練所

大淵高原に建設

知恵おくれの児童に規律正しい学園生活を通して、より良い生活習慣を身につけさせる、社会生活に適応できるように指導する施設「市立ふじやま学園」は、昭和四十二年三月を完成目標に、工費三二〇〇万円を八月中旬に着工することになりました。
この学園は、現在市内に五〇〇人いる知恵おくれの児童を収容する施設をつくるため、吉原ハートビル(小沢県会長)が昭和三十八年から集めた五〇〇万円を市に寄金、これに国県、市の補助を加えた三二〇〇万円で大淵曾比奈(興立富士見学園西側)に建設するものです。
計画によると、敷地面積は六七二九平方m。建物は、管理棟、給食棟、児童

市立ふじやま学園



八畳間が一〇部屋つくられます。そのほか静養室、医務室もこの棟につくられます。
なお、職員宿舎、暖房設備、浄化槽工事などは予算のところで本年度はできませんが早急につくる計画です。
写真(下) ふじやま学園の建設現場

くらしの便利帳



◆ミニパンのおやつ
蒸餾をくぐらせたキャバツ一枚を半分切りパンの切りはしと、ハム、チーズ、ソーセージなどありあわせのものをまき、キャベツがはがれないようにつまようじでとめます。ハチミツなどをつけることももよこびます

◆レバーをおいしく
レバーは鉄分やビタミンの多い貧血症の人に好適ですが、においをいやがる人のためにレバーを買ったらすぐ塩水につけます。一口で食べよよい大きさにそぎ切りにしてシヨウガじようゆ、またはウスターソースに三十分つけてから汁気をきり、小麦粉をまぶして、油でいためます。

◆電気ガマのふたにふきん
電気ガマのふたがブカブカなときは、ふきんを二重にしておきます。ふきんは、ふたをふたつたとき、たれるとふきんがふき取れず、便利です。

◆豆辞典
...ことはのいわれ...
びんはね
中間にあつて、不当に利益をこましたり、うわまをねたりすることを「びんはね」といいます。

いつたいこの「ピン」とはどこからきたのでしょうか。
どうやらこの「ピン」の先祖は、ポルトガル語のピントにあるようです。このピントは「点」を意味することばで、十七世紀、ポルトガル人がもってきたことばのようです。英語のポイント、スペイン語ではピントという一連のことばで、いづれも点とか先端を意味します。そんなところから「先をはねる」とか「頭をはねる」というようになつたものだとわかっていきます。わたしたちが日常つかっていることばの中には、ポルトガル語から転化したものがたくさんあります。たとえば、カルタ、カステラ、カツパ、カルメラ、キヤラメル、パン、コップ、ザボンなどです。